

2024年11月15日
株式会社 毎日放送 広報部

第62回ギャラクシー賞上期 受賞のお知らせ

放送批評懇談会が、日本の放送文化の質的な向上を目的とし、優秀な番組・個人・団体を顕彰するギャラクシー賞上期の選考で「報道活動部門」の入賞候補作品として選出されました。さらに「テレビ部門」では、2作品が「奨励賞」を受賞しました。

【報道活動部門 入賞候補】

『 よんちゃんTV コドモマモル～性と向き合う～キャンペーン 』

報道活動部門は上期と下期の候補作品を合わせた中から、大賞、優秀賞、選奨、奨励賞が選出されます。最終選考結果は、2025年6月上旬開催予定の贈賞式で発表されます。



【テレビ部門 奨励賞】

『 映像'24「国家の嘘と報道の任～北朝鮮帰国事業65年～」 』

MBSドラマイズム 『 滅相も無い 』

【報道活動部門 入賞候補】

『よんちゃんTV コドモマモル～性と向き合う～キャンペーン』

放送日時: 2024年7月15日(月)、16日(火)、17日(水)

8月20日(火)、21日(水)、22日(木)、27日(火)

午後3:40～午後7:00

担当: 報道情報局番組センター・橋本佐与子 大迫裕朗 下濱大史 吉川元基
報道情報局報道センター・中村真千子 金咲和歌子 斎藤初音 横田舞
太田愛美(クリーク・アンド・リバー) 大里奈々(MBS 企画)
総合編成局アナウンスセンター・河田直也 玉巻映美

内容: 2024年6月、子ども性暴力防止法が成立し、日本版DBSの導入が現実的になった。しかし、施行されるのは2026年度中で、その間にも子どもが性犯罪に巻き込まれる事件はなくなる。メディアは性犯罪の事件をその都度伝え、再発防止や注意喚起を行う。果たしてそれだけでいいのだろうか、と素朴な思いから立ち上がったのがこの企画だ。性を正しく知ることは自分の身を守る術になる、そのためにはタブー視されがちな性の話を番組ではっきりと正確に伝えることが重要だと考えた。放送で繰り返し伝えていくことで、性に対する知識と意識を変え、子どもだけでなく大人の性に対する価値観の変化も求めるものとして始動した。『よんちゃんTV』の特集コーナーで夏休みが始まる7月中旬と夏休み後半の8月下旬に放送を企画。夏休み最後の土曜日・8月24日にはMBSロビーで親子で学び考えるイベントを開催。低学年向けの子どもたちには、性の多様性を学ぶワークショップを企画し大勢の人たちが参加した。大人と子供が一緒になって性について真剣に学び合える機会となり、放送局と視聴者の貴重な交流の場となった。



【奨励賞】

番組名:『映像24「国家の嘘と報道の任～北朝鮮帰国事業65年～」』

放送日時: 2024年 9月22日(日)あさ5:00～6:00

スタッフ: プロデューサー 橋本佐与子(報道情報局番組センター)

ディレクター 奥田雅治(報道情報局番組センター)

内容:かつて「地上の楽園」と呼ばれた国があります。北朝鮮です。帰国事業は、1959年から1984年の間に行われ、実に9万人以上の人たちが海を渡りました。その中には、配偶者など6730人の日本人が含まれています。けれど、実際は「地上の楽園」の生活とはほど遠く、監視社会の中で食うに困る日々を強いられることに。大阪・八尾市に住む斉藤博子さん(83)は「3年したら日本に帰れる」という嘘を信じ、在日朝鮮人の夫と帰国事業に参加した日本人妻のひとりです。困窮した自由のない生活を強いられ、6人いた子どものうち4人と夫は、餓死や病死しました。斉藤さんは、単身で2001年に中国を経由し脱北します。斉藤さんたち脱北者4人はいま「騙され人生を狂わされた」として北朝鮮政府を相手に損害賠償を求めて裁判を闘っています。東京地裁では除斥期間を理由に敗訴しましたが、去年東京高裁は、出国させずに留め置いたことに関して日本でも裁判ができ、時効ではないとして地裁に差し戻しました。帰国事業を巡っては当時、訪朝団に参加した新聞記者が好意的に報じたことで帰国事業をあと押ししたと指摘されています。なぜ、メディアは「国家の嘘」を見抜くことができなかったのか。当時、記者だった人たちからの証言を得て報道の役割を考えます。



【奨励賞】

番組名: MBSドラマイズム『滅相も無い』

放送日時: 2024年 4月16日(水) から 2024年 6月4日(水) まで
深夜0:59~1:29

スタッフ:プロデューサー 上浦侑奈(コンテンツ戦略局東京コンテンツ戦略部)

内容: 巨大な“穴”が現れた日本を舞台に、“穴”に入るか悩む8人の男女がお互いの人生を語り合う、前代未聞の“穴”ドラマ。

“穴”に入るか悩む男女役には、中川大志、染谷将太、上白石萌歌、森田想、古舘寛治、平原テツ、中嶋朋子、窪田正孝ら豪華キャストが名をつらね、“穴”の教祖役は堤真一が好演した。

問合せ: 毎日放送 広報部